

J O F I 東京通信

第 14号 2026 年(令和 8 年)1 月 1 日発行
<https://jofi-tokyo.org/>

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌

目次

今年度の新たな試み・活動について	1
会長 鈴木 伸一	
はじめてのアユ体験	3
石井 利明	
釣りへの AI 導入実験	5
菅野 健二	
芸人さんと夏休み釣り行記	7
本村 慧介	
2025 年の釣りに関して	9
新井 勝之	
2025 年、活動の振り返り	9
小田野 紀芳	
No fishing, no life	10
渡邊 好章	
一年の振り返りとこれからの釣り	11
菊池 和明	
トラフグ XDAY	12
安達 信吉	
マゴチを追いかけて	14
真中 友和	
丹下のおじさん	15
宗圓 正義	
川ボラ	17
鈴木 伸一	
2025 年度活動実績	20
編集後記	20

今年度の新たな試み・活動について

会長 鈴木 伸一

この数年、地球温暖化による影響が様々な面で急速に顕在化してきました。今年度は釣りインストラクター活動にとっても、昨年度にも増してその影響は増大し、今後の我々の活動に大きな示唆を与えてくれた年と言えるのではないのでしょうか。以下、今年度の新たな試み・活動を中心に振り返ってみると、

1.JOFI 東京では、内水面における活動の一環として、渡良瀬漁協に協力して釣り場環境保全活動・安全かつルール遵守の釣り指導を行っています。

(1) 昨年に続きカジカの人工産卵場造成を1月13日(月)に実施しました。



今回は栃木県水産試験場の専門家による実地指導の下、昨年度産卵実績のあった地点を中心に行いました。ところが、冬季であるにもかかわらず例年と比べ出水が多く、3月20日(木)に行った確認調査の際には、昨年実績のあった地点では設置しておいた瓦があらかた流されてしまい、残念ながら我々が造成した地点では産卵の実績は得られませんでした。それでも自然の仕組みはよくしたもので、岸際の浅瀬の一部では産卵が確認できました(いくら環境が変化しようとも、野生の種の保全の営みはしたたかである)。

(2) 4月26日(土)は、昨年度より引き続き渡良瀬漁業組合、国土交通省渡良瀬河川事務所共催の「わたらせ水辺観察会」が開催されました。参加者は昨年度にも増して、事故もなく盛況裏に終えることが出来まし

た。この行政や流域の方々などと連携したイベントは定着できることを願っています。



(3)また、今年度は8月9日(土)～10日(日)、新たに「みんなでやるぞ内水面漁業活性化事業」の一環として、渡良瀬川(中橋緑地)におきまして、渡良瀬漁業協同組合、栃木県漁業協同組合連合会共催「はじめてのアユ釣りinわたらせ」(午前中は小学生親子、午後は初心者(中学生以上)が対象)が開催されました。(一社)全日本釣り団体協議会も当イベントに協力し、子供用ライフジャケット・偏光グラスの貸し出し、釣りの安全・ルール・マナーに関するレクチャーなど、主にJOFI東京が安全面に関するサポートを行いました(遠目にもよく目立つ赤いビブスを着用した看護師さんにも同行していただきました)。

初日は猛暑、2日目は雨天と天候には恵まれませんでした。終わってみれば事故もなく、小さなお子さまでさえも「つ抜け」が続出。釣り終えた後にはふっくらと焼きあがった鮎の塩焼きが振る舞われるなど参加者は大喜び、初めての試みとしてはまずまずの成功裏に終えることが出来たのではないのでしょうか。なお、このイベントでは手の空いた時間を見つけては、釣りインストラクターに関して様々な営業活動も行うことが出来ました。



ア. 9日の昼食時、ボランティアとして参加していた学生さん方からまたま鮎の生態などを聞かれたことが縁で、彼らのゼミ活動支援を行うことに。全釣り協

事務局に来ていただきアユに関しての講義を行ったり、栃木県水産試験場、栃木県漁連を訪問して専門家の意見をお聞きしたり、栃木県ながわ水遊園(水族館)を見学したりと久々にアカデミックな気分になることが出来ました。釣りとは無縁だった方々にも、釣りインストラクターに関して多少は興味を持てただけなのではないでしょうか。

- イ. 10日には、全釣り協の遊漁講習会等検討委員会メンバーでもいらっしゃる東京海洋大学の工藤教授もお見えになり、栃木県漁連の加賀専務理事、渡良瀬漁協の石井組合長と共に今後の内水面漁業に関する課題や問題点など意義ある意見交換が出来ました。
- ウ. JOFI東京の参加もきっかけになっていただけたのであれば嬉しいのですが、今回、「おじか・きぬ漁協」から2名の方が釣りインストラクター講習に参加されました。栃木県漁連では当面毎年いずれかの漁協から釣りインストラクター講習を受講していただけたとのことでした。来年度は「おじか・きぬ漁協」とのコラボによるイベントが実現出来ればと願っています。

2. ねりま遊漁スクールに関しては、今年度も7月27日と9月7日の2回実施できました。前年度に引き続き、熱中症に関しては万全の体制で臨みましたが、9月7日分に関しては思わぬトラブルに遭遇しました。

イベント開催予定日の1週前の天気予報ではまるで問題はなかったのですが、9月3日18時頃、南大東島の南東海上にあった熱帯低気圧が急速に成長し(地球温暖化の影響で、日本近海の海水温が上昇)、台風15号が発生しました。台風15号は北寄りに進んだ後徐々に北東へ進路を変え、4日16時頃には高知県宿毛市に上陸、その後、東日本太平洋側を駆け抜けるように時速約60kmで東進し、太平洋沿岸部を中心に短時間の内に被害が広がった希なケースでした。



9月3日(水)夕方からは練馬区や参加者と連日のように開催の有無について連絡を取り合い、台風15号は5日(金)には現地付近を通過したものの、6日(土)には釣り場近辺の安全確認のため現地調査を行うなど、多大な労力や予想外の出費が伴いました。しかしなが

ら、たかが釣り教室と云えど、参加者の掛け替えのない命を預かる責任あるイベント、今更ながら安全面に対する配慮の必要性を身にしみて感じた次第です。

従来からもそうでしたが、アンケート結果からも、釣りに関する法令・マナーの啓蒙、丁寧な釣り指導はもちろんのこと、安全面に関しての配慮に対しては殊の外高い評価が得られています(参加者からも練馬区からも)。

3. 今年は新たに港区立芝浦港南区民センターからの依頼を受けて、「芝浦から沖に出よう! 親子で船釣り講座」を担当することになりました。日にちを分け、釣りの安全、ルールとマナー、釣具の扱い方や料理の仕方などについての座学と実釣の二本立て講座です



好評だったこともあってか、来年度からは年に2回開催の運びとなり、しかも主催者側からも釣りインストラクター講習を受けていただき嬉しい限りです。

以上、JOFI 東京会員皆様の地道な活動が少しずつ実を結んできた結果だと思えます。今後ともよろしく願いいたします。

はじめてのアユ体験

石井 利明

2025年8月9～10日に一社・全日本釣り団体協議会(以下、全釣り協)は、栃木県漁連と渡良瀬漁業協同組合の共催、足利市教育委員会、足利市農政課、一社・足利市観光協会の後援、国土交通省渡良瀬工事事務所、東武鉄道協力による、“はじめてのアユ釣り体験(以下、アユ釣り体験)”に参加した。

このアユ釣り体験は、「やるぞ内水面漁業活性化事業」の一環で、日本の内水面漁業を活性化させる国の事業として位置づけられている。従来は遊漁券の ITC 化や中核となるコーディネーターの育成が中心であっ

たが、今年度からは、その確保した資源の下で、どうすれば、釣り人との連携やゾーニングによる漁場管理の拡大、ICT遊漁券アプリを活用した遊漁者の呼び込みなど、効率的な漁場管理や内水面漁業活性化の方法

渡良瀬川
はじめてのアユ釣りプロジェクト

みんなで作るぞ
内水面漁業活性化事業

釣ったあゆは
持ち帰れるよ!

鮎 体釣 験り

in わたらせ
集合 中橋緑地河川敷
場所 (足利市中橋と田中橋の間北岸)

- 参加対象: 鮎釣りを体験したい方
- ※未経験、初心者向け(中学生以上)
- 受付・準備: 13:00～13:30
- 釣り体験: 13:30～15:00
- 定員: 各日20名

開催日
8/9 ± 8/10 日
予備日: 8/11(月)

体験料金
無料

【持ち物】動きやすい服装 | 帽子 | 日焼け止め | 飲み物

お申し込みは裏面をご覧ください。
お申し込みは裏面をご覧ください。

渡良瀬漁業協同組合
総合事務局
〒326-0022 栃木県足利市常盤町623-4
TEL. 0284-91-2361 (火・木・土の13時～17時止)

主催: 渡良瀬漁業協同組合 栃木県漁業協同組合連合会
後援: 足利市教育委員会 / 足利市農政課 / 一般社団法人 足利市観光協会 / 足利市教育委員会
協力: 国土交通省 渡良瀬川河川事務所 / 一般社団法人 全日本釣り団体協議会

の検討・実行にステップアップする事が目的となった。

協力するにあたり、全釣り協では、ライフジャケットの貸与、参加者への安全管理・教育、及び救急看護の人員提供を実施した。この資材、人員の協力は共催者のみならず参加者、後援、協力機関からも非常に好評で、「ありがたかった」という感謝の声を多くもらった。

また、参加した全釣り協のメンバーからも、実際に“はじめてのアユ釣り”を体験するなど、すべての参加者が楽しく有意義な時間を過ごせたと感じてもらえたと思う。

実際に、この種の体験(イベント)を開催してみて、思いついた事を時系列的に書き記したい。

釣りが置かれている厳しい現状

今回のアユ釣り体験は、参加者を午前中は近隣小学生(5・6年生)、午後は一般のアユ釣り未経験者とし、ほぼマンツーマンの指導になることを想定し、人数を各20名、2日間で合計80名を募集することとした。今回は、国の補助事業であるため、開催経費は全額補助申請できるため、参加費は無料とした。無料でもあるため、一般の参加者は、苦勞せずに集められたが、小学生を集めるのには難儀した。市の教育委員会が後援になってもらったので、近隣の小学校の対象小学生300人に学校から上記のパンフレットを配布してもらったが、集まりは悪く。無料という事で地元新聞(下野新聞)にも手伝って貰って最終的には30人弱の小学生

に参加してもらった。

当日、参加した小学生たちに、「周りで釣りをする友達はいる？」と訊いてみたが、ほとんどの小学生は「いない」という返事だった。

それを裏付けるグラフを「ねほり.com」(<https://nehori.com/nikki/2024/01/10/post-55276/>)から引用する。



2023 のレジャー白書によると 2023 年の釣り人口は 510 万人とされ最盛期の 2,000 万人の約 1/4 まで減少している。

リアルフィッシングカウンスル (<https://baysidecouncil.net/archives/7769>) には、レジャー白書から引用された年齢比率も掲載されているので以下、孫引きする。



20 代が極端に減るのは、人生のステージ多忙機にあたるためかと思うが、10 代の 6.4%を自分たちの 10 代と比べて、どう感じますか？

“釣り”という、レクリエーションは、現代では、このような厳しい外部環境に置かれている事を再認識する必要がある。

なぜアユ釣りか？

「何で小学生にアユ釣りなのか？」と、疑問を持った方々もいると思う。

アユ釣りは難しいので小学生向きではない、と一般には考えられて事は承知している。その難しさの一番の原因は、アユ釣で一般的に使われている 9mの長い竿に起因していると考ええる。このような長竿を扱うのは小学生には、いや、大人の初心者でも難しい。

今回のアユ釣り体験では、本流の脇の分流（川幅 7 m位）を釣り場とする事で 4-5mの竿で十分、釣りが成立する場所を選定した。オトリ鮎を鼻カンに付ける作業は指導者が行えば、竿を“振込”が無い分、簡単に釣りを楽しむ事が出来た。



今回は栃木県アユ種苗センターの協力もあり(かなりの過密放流下で実施できた)、釣りをやった事のない小学生でも 20 匹釣った猛者もいた。現在では一般的になった“抜き上げ”まで出来る小学生も多数出現。



もう一つ、嬉しかった事は、指導者となってくれた平均年齢 70 は超えるという“じっちゃん”の方々が楽しそうにしていた事である(普段の私にも、この時の気持ちで接して欲しい)。

なぜアユ釣りか？の理由に付け加える事として、近年の鮎の遡上の激減に反比例する形で、鮎の天然遡上が絶好調だという背景がある。渡良瀬川の 5 月に開

催された解禁前の試し釣りでは、釣れたアユの 70% 以上を天然遡上の魚が占めた。

全国の内水面漁協に共通の課題として、近年、高騰をしている放流魚の代金に、どう対処するかの問題がある。“過度に放流に頼らず”如何に釣り場を運営、経営していくかが、これからの内水面漁協に求められる。その中心になるのが、川と海を行き来する“アユ”ではないか、というのが私の思いである。川と海の間には、様々な障害(物)が存在する。それらの障害(物)を一つずつ解決していかなければ、釣りの根本である生態系の改善にはならない。



そのためにも釣って面白い、食べて美味しい(今回のアユ釣り体験で、釣ったてのアユを食べてもらった方々には納得してもらえたはず)アユは、釣り人だけでなく、釣りをしない数多くの人たちにも、その大切さが分かってもらえると考える。地域住民たちの“意識”が変われば、魚にまつわる環境も変わって来るはずと考える。

まとめに

これからの“釣り”に求められることは、釣りをしない 1 億人以上の人たちに、年に数回でもいいから、釣りをしてもらう。もらえるようになる事だと感じている。現在、釣り人が起こしている事件、事故は後を絶たない。このような事項を改め、魚が生息できる環境を保全、修復していく事が、いかに大切かをもっと広く知ってもらえる事が大切である。この一步を実現するためには、多くの人たちと関係性、ネットワークを作る事だと考える。その意味でも、釣りを縦横に横断する全釣り協のインストラクターの方々には、有する関係性を生かし、様々な釣りモノに挑戦し、釣りをしない人たちに釣りの楽しみを伝授して欲しい。

釣りへの AI 導入実験

菅野 健二

こんにちは！ みなさん、釣りを楽しんでいますか？

今回は、東京某所の管理釣り場での実験についてレ

ポートします。近年、加速するテクノロジーの発達が目覚ましく、AI が実生活に浸透しつつあると感じることが多くなりました。

私自身、副業で AI を使う機会が増え、作業の効率化が進んでいることを日々実感しています。AI の強みのひとつは、与えられた情報をもとに膨大なパターンを学習し、状況に合わせて瞬時に推測ができることです。その AI を“釣り”に応用してみたらどうなるのか——そんな好奇心が湧いてきました。



釣りといえば、人の経験や感覚が長い歴史の中で磨かれてきた、ある意味「伝統の遊び」ですよね。私も初めて釣具店に足を踏み入れたとき、独特の空気になんとも緊張しつつ、どこかワクワクしたのを覚えています。ただ、時代は常に変わり続けます。新しい技術を取り入れることに抵抗を感じても、その“変化の波”に少しずつ順応していきます。実際に、AI を釣りに活かすサービスやアプリ、ブログなども見かけるようになりました。漁業の世界でも「スマート水産業」として AI 技術の導入が進んでいるようで、釣りがテクノロジーと共存し始めていることを感じます。

そんな背景もあって、今回の実験では「AI は釣りにどこまでコミットできるのか？」をテーマに検証してみることになりました。もちろん、釣りに不確定要素はつきものですよね。魚の活性が高いタイミングなら、どんなルアーでも反応しやすくなったり、条件が揃えば“偶然のヒット”も起きます。必ずしも結果だけで判断できないのが釣りの難しさでもあります。ですので、ここでの結果が絶対的な正解というわけではありません。あくまで一つの視点として、気軽に楽しんでいただけたら嬉しいです。



はじめに、AI へ「レインボートラウトの反応がいいルアーを選定してください」と指示を出しました。そのうえで、気温や水温といった釣りに重要な条件を入力すると、AI はそれらの情報をもとに、次のような結果を返してくれました。

予測条件(AI 解析)

気温:14° C
 水温:8° C(低め → 低活性～中活性)
 天気:晴れ
 前日:雨(→ 流れ強め、濁りが少し残る可能性)
 時間:8:44(朝まずめ後半)

レインボートラウトの行動予測(要約)

8°Cはトラウトにとって“やや低水温”。スロー気味のアプローチが有効。

前日の雨で流れ込み付近に餌が流され、“白・銀系のベイトパターン”が濃くなる。

朝の光量が上がる時間帯 → ナチュラル+シルバー系が効きやすい。

最も反応が期待できるルアー

A.スプーン 2.5-3.5g(シルバー+青/黒系)※最有力
 理由:低水温でスローに引ける
 晴れ+朝の光でシルバーのフラッシングが最適
 雨後の「クリア～やや濁り」に一番強い

B.ミノー(45～55mm)サスペンド or スローシンキング

色:パールホワイト、チャート少量
 理由:雨後でベイトを意識 → ミノー強い
 低水温 × 朝はスロー → 止めの“間”が効く

といったように、たくさんの有力な情報を集めてきてくれました。

早速「A.スプーン 2.5-3.5g(シルバー+青/黒系)」※最有力

これから始めてみます。その結果、3 投目で釣れました！

溪流スプーンシルバー、3.8gを使用しました。

次に「B.ミノー(45～55mm)サスペンド or スローシンキング」も投入してみましたが反応はありませんでした。

そして、場所を移動して、もう一度試してみます。

「A.スプーン 2.5-3.5g(シルバー+青/黒系)」※最有力

同じルアーを使用します。

その結果、2～3 投で釣れました！



そして、前回同様に「ミノー(45～55mm)サスペンド or スローシンキング」も投入してみるも、これは反応なし。その後、昼の喰いが渋る時間帯に入り、状況が少しずつ変わり始めていました。そこで再び AI に条件を入力し、今の状況に合ったアプローチを指示することになりました。その結果が以下になります。

11:00 のレインボートラウト行動予測(要約)

水温 8°C → 低～中活性。中層～ボトム寄りに落ち着く時間帯
 朝より日差しが強まり、表層の警戒心が上がる
 ベイトの動きも鈍り、速い動きには反応しづらい

行動パターン

中層～やや深めに定位
 流れの“ヨレ”“カーブの内側”の省エネポジションに入る
 速いルアーよりスロー・弱アクションを好む
 前日の雨の影響で「流れ込み」「深み」の安定した場所に集まりやすい

最適ルアー

A.スプーン 1.5～2.2g(シルバー・オリーブ) → 超スロー巻き
 B.ディープクランク(ナチュラル系) → ただ巻き

どうでしょうか？これらの情報を数秒で出力できることに驚きです。早速、中層を狙える「B.ディープクランク(ナチュラル系) → ただ巻き」を試してみます。すると、2 投目でヒット！喰いが浅く、ランディング途中にバラしましたが、反応は良好。いまのところ、AI はしっかり活躍してくれています。そして釣り場に日陰が増えてきたため、もう一度 AI へ今の条件でどう動くべきか相談してみました。その結果(要約)が以下になります。

昼前 → 活性は朝ほど高くないが、日陰に群れが寄る「日陰補正」で十分狙える

最適ルアー

A.クランク(中層・ナチュラル) → 継続◎
 B.シャッドのサスペンド → “止め”1-2 秒で食わせ◎

クランクとシャッド SP が最も強い時間帯。
スローな横の動きが継続して効きます。

とのことで「B.シャッドのサスペンド(SP)」で実釣します。
結果はなんと、3 投ほどで釣ることができました！ 他の
ルアーも試してみましたが、この日はほとんど反応が
ありませんでした。そんな中で、AI の予測どおりに選んだ
ルアーがしっかり結果につながり、今回の実験は“読み
がハマった”形になりました。

私は、釣りの魅力の一つは「難しい局面を自分の読み
で切り開く楽しさ」にあると思います。特に競技では、そ
れまで培ってきた経験や直感が頼りになる場面が多く
あります。

それでも、釣れない時間が続くと気持ちが折れそうに
なることもありますよね。「どのようにアプローチしようか
…」と迷う場面でも、AI が選択肢を整理してくれること
で気持ちが軽くなり、自然と釣りに向き合いやすくなる
瞬間がありました。また、AI のサポートがあることで、こ
れまで挑戦しづらかった釣り方や新しいフィールドへの
一歩が踏み出しやすくなり、釣りの幅も広がっていくよ
うに感じます。

今回の実験では、AI が“有力”としたルアーで実際に
結果が出ました。もちろん、いつも同じようにいくわけ
ではありませんが、こうした“もう一つの視点”があるだけ
で迷いが減り、新しい発見へつながるきっかけになりそ
うです。釣りインストラクターとして、変わり続ける環境に
柔軟に対応しながら、こうした新しいツールも取り入れ
つつ、釣り業界を少しでも盛り上げていけたらと思いま
す。

芸人さんと夏休み釣行記

本村 慧介

『脱力系ラップ』でお馴染み(!?)吉本興業の営業本数
No.1 で多忙を極めるジョイマンのツッコミ担当・池谷和
志氏から連絡をいただき、2025 年 8 月 18 日駿河湾
のオフショアキャスティングゲームに行ってきました。前
回(駿河湾でナイトゲームの太刀魚)ご一緒できたのは
2021年の東京オリンピックの直後だったので実に4年
ぶり！まさにオリンピックの開催ペースのような貴重なイ
ベント発生となりました。

連絡をいただいたのは釣行のおよそ一か月前。その
時点で一か月先の状況を予測して計画を立てなければ
ならないので難しいところはありませんでしたが、沼津・駿河
湾からのオフショアキャスティングゲームを選択。前回
と同じ沼津・静浦港の第八幸松丸さんに予約を入れ、
これまた沼津の『tailwalk』『alpha tackle』等を展開
する株式会社エイテックの中村宗彦氏にサポートをお
願いして事前準備は完了!?あとは当日天候に恵まれ4

年に一度の釣行が実現することと、欲を言えば釣果に
も恵まれることを祈るばかりです。

そして迎えた当日、集まったメンバーは吉本興業から
ジョイマン池谷和志氏、ワタクシも初めましての池谷氏
の後輩(年齢は一緒)でこれまた売れっ子・フルーツポ
ンチの亘健太郎氏の2名、株式会社エイテックの中村
宗彦氏、そして不肖ワタクシの計4名。乗合船なのでそ
のほか一般のお客さんも数名。船内に有名人がいて
ちょっとザワザワ？天候にも恵まれワクワクしながらいざ
出船！

しばらく走って最初のシイラの群れに遭遇。芸人さん
たちのアテンドという重大な任務があるものの、とりあ
えず様子見でファーストキャスト。すると簡単に中型をキ
ャッチ！これなら誰でも大丈夫、芸人さんたちにも釣っ
てもらおうと亘氏の所へ行き、レクチャーしようとする
船長から群れが離れないように続けて投げるようにとの
アナウンス。慌てて再び海に向かってキャスト。どうや
って、どのタイミングで教えてあげたらいいの!?うーん、そ
うか。現場で人に釣りを教えるというのはこんな難しさも
あるのかと改めて勉強になりました。

さて、その亘氏ですが、元々軽いルアーのブラックバ
ス釣りをメインにシーバスなども少々経験があったお
かげで最初こそ投げ慣れない大き目のルアーのキャスト
に戸惑ったものの、すぐにコツを掴み順調に釣果を
伸ばしていきます。



フルーツポンチ 亘健太郎氏

一方、ジョイマン池谷氏はルアー釣りが初めて。キャ
ストにぎこちなさはあるものの、エキスパート・中村氏の
サポートを受けてメキメキと上達、やはり釣果を伸ばし
ていきます。そんな訳で、フタを開けてみればとにかく
爆釣！どこへ行っても入れ食いで一日中(正確には半
日？だいたい午前中)中型メインながらも大型交じりで

釣れ続けて腕がパンパンになるという最高の日に当たったようです。



ジョイマン池谷和志氏

当日の幸松丸さんの釣果情報がコチラ

↓
<https://numazu-koshomaru.com/result/7135/>



株式会社エイテック中村宗彦氏

その日(2025年8月18日)までのシーズンで最も良い日だったそう。ワタクシも一つのルアーのフロントフックとリアフックのそれぞれにシイラを掛けて一度に2匹釣るという初めての経験をさせていただきました。さすがに抜き上げるわけにはいかず、亘さんがネットインしてくれて無事に2匹同時にキャッチ！ありがとうございました。という訳で、いやあ、本当に楽しかった！シイラ釣り初挑戦の芸人さんたちはもちろん、ベテラン勢も大満足の釣行となりました。



亘氏が釣り上げたこの日の最大魚？



池谷氏&亘氏 W キャッチ
一応筆者も(笑)



釣りの後は沼津港に移動して海鮮に舌鼓。ここでも芸人さんたちは大人気。お店の方に頼まれて記念撮影。沼津には『沼津ラクーンよしもと劇場』という劇場があり、ジョイマンさんもフルーツポンチさんも出番でちょくちょく来ている土地ではありますが、普段とは一味違った沼津になった事と思います。芸人さんたちは更に釣果を東京の行きつけの店に持ち込み、夜も仲間たちと楽しんだようです。文字通り朝から晩まで一日中楽しめたようであり、後で『最高の夏休みになった』とのご報告をいただきました。サポートいただいた株式会社エイテックの中村様も本当にありがとうございました。次は4年後と言わず、必ず近いうちにまた行きましょう！

※吉本興業様、各タレント様より写真掲載の承諾を得て掲載しております。二次利用はご遠慮ください。

2025 年の釣りに関して

新井 勝之

溪流釣が好きな私にとっては、昨年あたりから 熊による人的被害や農作物への被害などが 顕著に増加し特に人的被害の多さには驚きを隠せません。本来、熊は警戒心が強い動物なので、人里に下りてきて 町中を歩き回り、人や農作物に被害を与える事などは考えられない事態に陥っている実情では 川への釣りには躊躇しなければなりません。

大きな要因としては 地球の温暖化や人的要因の森林の管理不足や無意味な開発等があげられ、エサとなる木の実が不足しているし、個体数も増加していて、熊には死活問題で仕方なく人里へ侵入していると思います。岐阜県？の猟師が、人との住み分けを実施するのに 山奥の森林に木の実が生る樹木を増やす活動をしているようですが、直ぐには効果は表れませんが 山奥に返すことは 良い案だと思いますが、高齢化や人口不足の中で 推し進めるのは難しい事です！

我々釣り人の対策としては、川に釣りに行くときは 鈴や熊除けスプレーを持っていきますが、北海道の友人は電子音が出る物が良いと言っていましたし、天敵の狼の鳴き声には効果が有るようなので、携帯型の発声器が有ればいいですね！



今年も6月に 道東の河川で釣りを楽しみましたが、幸いに熊に遭遇しませんでした。以前には、熊の糞とか、フキの密生地ではサークル形に食べた痕跡が有るところに出くわしましたが、直ぐに離れる事で、幸いにも出くわすことは有りませんでした。釣りをする時は つい夢中になり、熊への注意を忘れてしまうのは危険ですね！

画像は6月に行った道東で釣れたニジマスです。



2025 年、活動の振り返り

小田野 紀芳

JOFI 東京に入会して今年で5年になります。コロナ禍の影響もありますが、私自身、他のボランティア団体の活動に参加することが多く、今迄 JOFI のイベントには、あまり参加しておりませんでした。コロナ禍が過ぎ、また JOFI 東京会長のお誘いもあり、昨年から徐々にイベント参加機会が増えてまいりました。

今年に入り、1月には、足利市、渡良瀬漁協カジカ産卵床の造成に体験参加、この産卵床は3月に成果確認も行いました。

渡良瀬漁協のイベントは他にも4月の水辺観察会、8月の「はじめてのアユ釣り in わたらせ」と貴重な体験をさせていただきました。



また、年初には釣りフェスティバル会場での公認釣りインストラクター試験への勧誘も経験させていただきました。

月初の若洲クリーンアップ作戦にはほぼ毎回参加、地道な活動の大切さを感じました。若洲では他にも2度ほど親子釣り教室のインストラクションをさせていただきました。

更に6月には港区の(「芝浦から沖に出よう」親子 LT アジ釣り教室)のインストラクション、このイベントは座学、実釣と2回の実施です。JOFI 東京としても初めてのイベントということです。



年末の11月には、恐れ多くも、公認釣りインストラクター資格試験の実技試験の面接官を経験いたしました。

以上、今年の活動の振り返り、羅列になってしまいましたが、全体の活動を通して、自分の知識の低さ、スキルのなさを改めて痛感いたしました。

当然ではありますが、公認釣りインストラクターを名乗る以上、日々研鑽を積まなければならないと思う。

No fishing, no life

渡邊 好章

集英社発行 開高健著「オーパ！」に中国古諺として、以下の記述があります。

『一時間、幸せになりたかったら酒を飲みなさい。

三日間、幸せになりたかったら結婚しなさい。

八日間、幸せになりたかったら豚を殺して食べなさい。

永遠に、幸せになりたかったら釣りを覚えなさい。』

私が釣りを始めたのは、4～5才の頃で、70 歳を過ぎても未だ楽しんでます。オカッパリのハゼ釣りから始まり、船に乗っての沖釣りやヘラブナ釣り、荒磯の石鯛釣りなどいろいろやっていました。



それと同時に釣り竿作りもやってきました。60 歳還暦の記念に大作を作ろうと思い立ち、トロリーグロッドに挑みました。使用目的ではなく、観賞用として丁寧に美しく、2 ヶ月以上掛けて作りました(勿論、実釣可能です)。

私の JOFI 東京と出合いは 2015 年のフィッシングショーでした。その後試験を受け、今に至ります。いろいろと活動する中、JOFI 東京主催のイベントが少ないことがつき、会長と相談の結果ねりま遊遊スクール「親子で安全・楽しいハゼ釣りを！」が始まりました。



参加者には修了証と共に会長のコレクションから、記念品として和テイストの浮子(戦前に作られたセルロイド製)がプレゼントされていました。ところが、回を重ねるに従って残り少なくなってきたので、私がデザインから作成に至るまでを手がける発泡浮子に切り替えるようになりました。



このイベントに参加することで、未来のアングラーの「始めの一步」に関われること、正に幸せであり、これぞ私の “ No fishing, no life “ です。

一年の振り返りとこれからの釣り

菊池 和明

僕の今年の釣りは良くも悪くも色々な変化がありました。

1月から6月は茨城県的那珂川でシーバス釣りとメバル釣りとブラックバス釣り

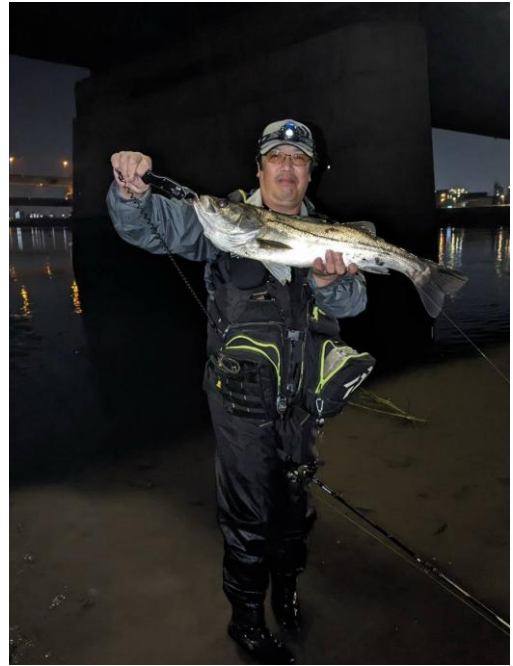
そして釣りインストラクター資格取得。

7月から11月東京湾奥でシーバス釣り。

12月はまた茨城県的那珂川に行く予定。



見ての通り僕の釣りはシーバスが専門です。
私生活がとても忙しい年になってしまい
色々な事が有りましたが
良い方々との出会いも多く、とても多くの事を体験、学習する事が出来たと思っています。
色々な新しい釣り方を開発し、実釣してテストを重ね
それなりの結果に辿り着き、僕が営んでいるシーバスのオカッパリガイドでも活かそうと思っています。



シーバスは年間で 3000 尾を越え
メバルも年間 2000 尾
釣りはちゃんと練習して上手くなるととても楽しい遊びになります。

魚の掛かる瞬間
魚との引き合い
釣れた時の嬉しさ

大物が釣れた時はアドレナリンで手の震えが出るほど楽しいのです。これは釣りでしか味わえない楽しさなのです。

僕はこの楽しさを色々な人に伝えて行きたい！と思ってインストラクターになろう！と受講しました。これを見た方々も是非、釣りインストラクター資格を取得してみてください！

それと僕がとても気にしているこれからの釣りの未来についてお話させて下さい。

猛威を振るったコロナ禍の中で、釣りと言う遊びがとても流行りました。今は若干の落ち着きも出てきましたが一部の釣り初心者の方々のあまりにも酷いマナー違反で漁港、河川、釣り公園など釣り場や自然を汚していかれる行為が後を断ちません

その為釣り禁止になる場所が年々増え続けております。

古くから伝わる釣りの文化

釣りを楽しんでいる方々の楽しみを奪う行為
あってはならない事だと思います。
しかし人間と言うものは人を変える事は出来ず
この現状を変える事は困難だと理解しております。
しかし一部の理解のある心ある方々で少しでも変える
事が出来るならそれは見つけたゴミを少しでも拾って
いただく事です。

釣りは海や川の中も汚してしまいます。
それもととても大きな問題だと自負しています。海や川を
掃除するとルアーや糸など自然に還らないまま残って
しまいます。

僕はそんな状況を変えるべくルアー会社を立ち上げ
自然を汚染しないルアーを作りました。
皆さんの考え方1つで徐々に変われると思います。
小さい事で良いのです。釣りに行くたびに何か一つ良
い事が出来ればチリも積もればで良くなっていくはず
です。

是非皆様、ご協力頂けたら嬉しいです。

皆さんで釣りの文化を守りましょう！



トラフグ XDAY

安達 信吉

舞台は東京湾。近年静かなブームとなっているフグの
カットウ釣り。筆者は特にその中でも激旨のトラフグに
取り憑かれてしまい、今もその余韻に浸っている。先に
打率を申し上げると八割。五釣行で一度のボウズ。合
間にショウサイフグにも出向いたが、今回はトラフグの
話に絞ることをご容赦いただきたい。

一回目釣行(1月上旬)― 偶然の出会い

初めて船に乗る仲間たちと、ショウサイフグ船で手軽
にワイワイと楽しむ予定だった。ところが船宿の都合に

より、急遽トラフグ船への変更を余儀なくされた。フグ釣
りの経験はあったが、トラフグは初めて。これは経験し
ておかねば…という思いから、先行して単身トラフグ船
に乗り込むこととなった。結果、宙の釣りでカットウ針を
用い、薄皮一枚という際どいフッキングで何とか型を見
ることができた。



二回目釣行(1月下旬)― 初陣の仲間
たち

先述の仲間たちと
の待望の乗船である。
彼らは沖釣り初体験。
談笑や悪ふざけも交
えながらポイントへ向
かったが、次第に会
話も途絶え、それぞ
れが修行モードへと
突入していった。

筆者はアタリはあれ
ど乗らず、というもど

かしい展開を繰り返していた。ふと横に目をやると、仲
間の女性が無言でリーリングしているではないか。後で
聞くと、何かが掛かって重い、もし魚でなかったら恥
ずかしいという思いから、ちゃんとタモに入るまで黙っ
ていたのだという。

しかもカットウ針に掛かったかと思いきや、エサ針が上
顎ど真ん中に！隣の知らないおじさんも、我々も、一
斉にテンションが上がった。ただこの日は、彼女の一匹
のみで沖上がりとなった。夜は仲間の店でマゴチを買
い求め、鍋宴会。貴重なトラフグの半身を刺身に、半
身をとっちりにして舌鼓を打った。ネイティブアメリカ
ンの風習では、バッファローを狩った本人がその証として
最初に肝を食べるという。フグでそんなことをしたら大
変なことになるな、などと考えながらの楽しい反省会で
あった。



三回目釣行(3月中旬)― XDAY 前夜

XDAY の前の静けさである。そしてこの日はホワイト
デー。バレンタインデーのチョコをトラフグで返したら喜
ばれるだろうか、いや逆に嫌がられるだろうか。そんな
くだらない思考を巡らせながら出港。この日は、苦勞し

て手に入れた関西量販店製の激安メタルトップ&スパイラルガイドのロッドのデビュー戦でもあった。



先日のエサが結構残っており、エサバリ一本仕掛けの上部にチラシ針を装着し、惜しげもなく使用する。そんなボリューミーな仕掛けにヒット！チラシ針に唇薄皮一枚でキャッチ。一応釣れたものの、なんだか仕掛けはエサだけでエビ

ボール状態。まあケミホタルやタイラバのスカートをつけている方もいらっしゃったから、工夫の一環ということにしておこう。決してスマートではないが。

四回目釣行(3月下旬)ー 待望のXDAY 到来

2024年のXDAYは3月23日に始まった(諸説あり)。高ぶる気持ちを抑え、先日予行演習を行った仲間と出陣。時化で、通常1時間半で到着するポイントまで2時間半を要した。新幹線なら大阪まで行ける距離である。飛行機なら往復できる。いつも浮かれている仲間の様子がおかしい…完全に船酔いである。



皆が意気消沈している中、士気を高めるべく筆者にヒット！今回も唇薄皮フッキングでキャッチ。ただ、その後は続かず納竿となった。今回の時化の洗礼は、今後の運営に影響を及ぼしそうな予感がする…。とはいえ、夜はトラフグパーティー。ワイワイと楽しく夜も更けていった。I氏の次の健闘を祈りながら、筆者が総裁を務めるTFC(トラフグ倶楽部の略か?)の冬は終わりを告げた…。

五回目釣行(4月中旬)ー グランドフィナーレ

XDAY 終盤、グランドフィナーレである。これまでずっと一匹であったため、二匹を目標にソロで出陣。程よい海の様子だが、おそらく今シーズンのラストバトル。ざわつく心を落ち着かせる。序盤、前方で誰かが装着しているのを見かけたタイラバのネクタイを試してみる。効果が感じられないので外したところ、すぐにヒット！どの釣りでも数匹釣って経験を積むと冷静さが備わるが、その分アドレナリンの分泌量が減るのか、こんなに重かったのかと改めて実感す

る。引きが強いというより、重い！水深80メートルの位置からの巻き上げで筋トレ状態。

そんなに深い釣りでもないのに電動リールの人が多い理由がわかった。脳裏に量販店のガラスのショーケースが浮かぶが、電動リールは実に高価である。予算を増やすべく、仕事を頑張らねばならない。取り込んでエラを切り、ベテランぶっていると、釣れていない隣の方に仕掛けを尋ねられた。

「自作ですが普通ですよ」と、これまたベテラン風を装って仕掛けをお見せする。逆にこちらも見せていただくと、三徳製の5/0のフック。この針を使っている方が多かった(というか定番なのだろうか)が個人的には、少々大きすぎるのではないかと思う。時合いに乗ることもなく、毎回余って豊富だったアルゼンチン赤エビを使い切るタイミングで納竿。

かくして、筆者初のトラフグXDAYは終わりを迎えた。船宿の方によると、例年は数日間なのが、今年は3~4週間も続いたとのこと。ただしその分、爆発的な祭りは少なかったようだ。トルクと食味を兼ね備えたトラフグ。来年も楽しめたらと思っている。



約45センチ。これ以上のサイズなら、電動リールが欲しいところである。



捌いてもらうためにカゴに入れて番号札を受け取るが、皆さんご立派。

【トラウトマン大佐】幼少の頃からヘラ釣りからフライフィッシングまで、淡水の釣り全般を嗜んできた。近年は鮎ルアーや船釣りなどにも活動の幅を広げ、釣った魚をいかに美味しく食べられるかをモットーとしている。酒と太鼓をこよなく愛するグラフィックデザイナー。



釣れなくとも、船上でのカップラーメンは格別である
言うまでもない至福の一時

マゴチを追いかけて

眞中 友和

船釣りを始めて6年、船での沖釣りをセオリー通りライトアジ釣りから入り、ウィリー五目やコマセ真鯛を経てマゴチ釣りに辿り着いた。きっかけは船での沖釣りを初めて半年くらい経った頃、金沢八景にある一ノ瀬丸さんでウィリー五目の乗合船にエントリーし出船を待っていた時、平日にもかかわらず、乗船客が多くひときわにぎわっている船があった。

何の釣り物の船だろうか？ 札を見るとマゴチ・・・？ 正直どんな魚かもわからなかった。

家に帰りマゴチ釣りに関する動画や番組がないか探してみるとTVのHDDの中にBSの釣り対決番組、しかもロケ地は一ノ瀬丸、渡りに船とはこの事だった。なんとなくどういう釣りか理解はできたが、船に乗る事や竿、リールの扱いにやっと慣れてきたぐらいの初心者が、得体のしれない魚に挑むにはまだまだ心もとない。事前に餌となるサイマキ(クルマエビのこども)のつけ方や棚の取り方を確認し、早速乗船エントリー。初めてであることを船長に伝えると、出船前に餌付け、棚取り、アタリの出方、アタリがあってからのやり取り、口の堅いマゴチの上あごを貫通させるあわせの入れ方、魚の取り込みまで一通りとても丁寧なレクチャーがあった。今でも思う事だが乗船料の半分はあのレクチャー料といっても過言ではないくらいわかりやすかった。初めての釣行は40センチ弱のマゴチが1匹、しかも終了ぎりぎり最後のポイントで自分が思っていた棚よりだいぶ上、ドツバタしながら釣りあげた。動悸がしているのではないかと、いほど心臓がバクバクした事、初めてのマゴチを釣り上げた感動は今でも記憶に残っている。



初釣行から5年、最盛期は毎週のように乗船し、何度となくボウズを食らい、同船の諸先輩方の釣りを横目に見ながら、少しずつ上達しているつもりでいたが、諸先輩方からすればまだまだひよっこだ。まだまだ見えていない事も多い。

そんな私が今年7月66.0センチ1.85キロと自分史上最大サイズを釣り上げることができた。

毎年60センチオーバーを釣り上げること目標にし、何度か61センチ、62センチクラスには出会っていたが65センチを超えるサイズは初めてだ。船長からも今の東京湾ではなかなか出ないサイズだから何か残したほうがいいと助言をいただき、外部でデジタル魚拓を依頼して残す事にした。



これは年内船中一番の大物になるんじゃないかと心を躍らせていたが、その2週間後何気なく釣果を確認してみたところ、66.5センチ・・・膝から崩れ落ちた。

今ではコマセ真鯛やヒラメ、カワハギ、ヤリイカ、トラフグ、ライトアジ、ルアーシーバスと時期に合わせた釣り物にも手を出しているが、マゴチだけは少なくとも月に一度必ず乗船するように心がけている。つまり私の釣りライフルーティーンにはマゴチを追いかけるという軸がある。次の目標は東京湾で70センチ、いややはり67センチにしよう。決して弱気ではない、長く楽しむためだ。

さらに今年4月からはJOFI東京のインストラクターとして活動のスタートを切った。そこでは新しい出会いがあり、堤防釣りやハゼ釣りイベント、溪流でのテンカラ、ユーロニフでのフライフィッシングを体験し、さらに釣りの幅を広げることができた。他の釣りから学べる事も多

く、それがマゴチ釣りの参考になっている事がしばしばある。JOFI 東京での新たな活動がルーティーン入りすると、これから忙しくなりそうだと一人心を躍らせている。



※初めてのデンカラ釣り フライフィッシング



※マゴチの身は 4 日間冷蔵庫で寝かせていただく。

丹下のおじさん

宗圓 正義

伊豆大島に空路で飛んでくる飛行機のパイロットである。島の人は、そのパイロットの機長を丹下と呼んでいる。丹下左膳である。片目に刀で斬られた傷があるが剣術鋭い怖いおじさんの事だと思う。

「まーちゃん、お客様が飛行機で来島するから、迎えに行ったら、午後から一緒に釣りをしようか。」『やった！敏蔭先生と一緒に釣りをして、教えてもらえる。』

宿から迎えに行き帰って来た先生が帰って来た。「さあ、まーちゃん行こうか。」

自分の好きなメジナ釣りを始めるが、敏蔭先生は釣れるが、中々浮きが沈むアタリが出ない。

敏蔭先生：「まーちゃん、竿を右に引いて、糸を張って止めてみ。」

おっ、おーっ。クンクン、グイーンと引き込まれた。乗った。重い。釣れた。

宗圓：『どうして、釣れたのだろうか。』

敏蔭先生：「まーちゃん、竿を左に引いて、糸を張って止めてみ。」

宗圓：『えっ、何で。左？。』

また、クンクン、グイーンと引き込まれた。

敏蔭先生：「まーちゃん、よし、上手いぞ。いいじゃないか。」

宗圓：『えっ、何で。左？。最初に右は利き手で張ったから、力加減が強すぎたから、繰り返して手の裏を使うようにアドバイスなのかな？』

なら、そーっと竿を抱えて波が落ちるタイミングでスーッと右に張れば良いかな。

敏蔭先生：「まーちゃん、逆だ。竿を左に引いて、糸を張って。そらっ、今、糸を緩めてみ。」

またも、35cm 程のメジナが竿を引ったくった。

宗圓：『えっ、何で。左？。場所はこのサラシの先で潮がぶつかり合い、潮立っているあそこだ。タイミングは波が磯にぶつかって来て、ドーンと返して、波がシャーッと前にサラシが伸び、スーッと大人しくなった次の瞬間、仕掛けの張り込みと浮き上がった仕掛けを再度ゆっくりと奴の前に落とし込むんだ。わかっているよ、いつも、教えてもらってるもん。でも、何で今日は左？何でだろう。』

コマセのイワシミンチを撒き続けながら、海中を観察する。

宗圓：『何でだろう。』

流れて行くイワシのブツがサラシに流されて行く。ジューッと観察してたら

宗圓：『あれっ？あそこにコマセを打ち、今あそこに流れて行って、あそこで勝負。さっき、右に仕掛けを張った時は右側にある磯の割れに波が当たり、サラシの伸びが左前に伸びていた。そうか！たまに来る大きな風波でつられたサラシと常に伸びるサラシが違う。と言う事は、コマセを打つタイミングも自分が狙うポイントに送れる様に、沖から来る波を良く観察して理想のサラシの伸び方になる時を待ち、風に邪魔されない様に、時々まやって来る大きな風波で出来る波を除けて待つ狙いのコマセタイミングで仕掛けが伸ばすのをコマセの打った方に平行にそーっと張り、サラシが静かになる次の瞬間、落としてやる。どうだ！これで！』

よしよし、浮子が入った。この海の観察、タイミングを波の音を聞きながら波のハーモニーを合わせてやるんだ。

敏蔭先生：「まーちゃん、上手いじゃないか、流石だなあ。」

宗圓：『でしょ。こんなんでも良いでしょ。』

何とか敏蔭先生のお陰で、半日に一斗缶に一杯のメジナが釣れる様になれた。多い時は一斗缶が2杯。当時はコマセバツカンなど無かったので、今で言うバツカンに2杯で大体 30kg 釣れた事になる。大ききで言うと 33cm～40cmのメジナ 40 尾。自分の様な中学生でも、先生に教わりいっぱいの釣り師の仲間入りできたかな。

上手なると、磯に放置の日が増える。今日は、飛行場下と呼ばれる万立の磯だ。北東の風 15m の強風だ。いくら後ろ側からの風とはいえ釣り辛い。ふと、飛行機の音で振り返るとこの強風なのに東京から飛んで来た。それも、いつもの富士山の方からのルートでなく、島の乳ヶ崎(ちがさき)の南側で島影を利用して、風を避けている。

宗圓:『あれっ? 飛行場を超えて行っちゃった。』

暫くして、いつもの北西からのルートで飛行場に着陸に入った。

宗圓:『あれっ? 揺れている? 危ないのじゃないかな。』と思っていた瞬間。

真直角に落下。10m急降下どころではない。15m 位落下したか! 釣りをしていたが、気になり振り返り見ていたが、その瞬間。飛行機の事故で大爆発。飛行場が大火災を想像し、反射的に後ろにジャンプしていた。海の後ろの後ろ。早い話し、海に後ろ向きのまま、空中にジャンプ。空中で失敗した、大変だ、海に落ちる。オレはなんて事したのだろう。後悔しても、自分の身体は空中でどうにもならない。

ガツーン! 着地した所もまだ、磯際でギリギリで海に不本意な飛び込みをしないですんだ。ダメだ、心臓がバクバクで膝が立たない。息がハアハアと落ち着かない。何分動揺が収まらなかったのだろう。暫くして、

ウォーンー。とエンジン音が響いているのがわかった。飛行場から煙も上がっていない。飛行機はどうなったのだろう。爆発は無かったが羽がもげてたりはしないだろうか。恐怖と乗員の無事が気になって、震えが止まらない。

昼に敏蔭先生が「今日は風が強いから、場所を移動しようか。」と迎えに来てくれた。

宗圓:『先生、今日飛行機が真直角に落ちたよ。飛行機事故があったみたいだよ。』と言うと

敏蔭先生:「まーちゃん、何言っているんだ。さっきも飛行場にお客さんを迎えに行ってきたが、何もないぞ。それにパイロットが丹下だから、大丈夫だよ。問題無い。」

宗圓:「だって、今日凄いいんだよ。揺れながら、着陸の寸前に真直角だよ。」

敏蔭先生:「丹下は大丈夫。丹下は零戦特攻隊の生き残りなんだよ。他の連中なら無理だが、丹下なら大丈夫だから。」

それからと言うと、万立の磯に入る度、飛行機が気になる。風速 15m 越えなのに、飛行ルートが、あちこちから飛んで来る。そして、あの時と同じ様にエンジン音が飛行場に鳴り響いている。今日もこの強風なのに、無事、任務完了。安全に事故無く、航行しました。段々、無事は当たり前。どんだけ強風なら欠航になるか気になってしまう。北西の風 17m。流石にこれじゃ無理だろう。

敏蔭先生:「まーちゃん、お客様が飛行機で来島するから、迎えに行ったら、午後から一緒に釣りをしようか。」

宗圓:『やった! 敏蔭先生と一緒に釣りをして、教えて

もらえる。』

敏蔭先生:「まーちゃん、今日は、お客様と一緒に迎えに行って、その足で釣りに行こうか。」

宗圓:「えーっ、でもこの強風じゃあ飛行機来ないよね。無理だよ。」

敏蔭先生:「丹下なら大丈夫。問題無い。」

飛行場に行けば、もし欠航せずに着陸すれば、初めて丹下さんに会える。どうか、無事飛んで来て下さい。

定刻通り待ち合わせ室も整理が始まった。機長丹下さんだろうか、島民の方が奥で「丹下さん、ありがとう。」と聞こえる。何度も同じ様に皆の声が聞こえる。「丹下さん、ありがとう。」と聞こえる。どっかに降りて来たのだろうか。敏蔭先生が寄り添い「丹下。ありがとな。」とニヤリと笑うオジさんがいた。

『えっ、この人が丹下さん? 屈強な零戦特攻隊の方?』どう見ても、ちんちくりんな普通のオジさんだ。この強風をものともせず飛行して来た有能なパイロットの方? 顔に傷だって、言われなければ目立たない。皆が悪口言っているが、物腰柔らかで無口なオジさんだ。

戦争と言う嫌な思い出があるのかな。

気になり、伊豆大島釣行には、航路の欠航かが気になる。自分の好きなメジナ釣りは冬季がメイン釣り時期で季節風に釣り場選択に翻弄されてしまう。何度か気にしていると 15m の風なら丹下さんは問題無く飛んで来る。ただし、どっから飛んで来るか分からない。万立の釣り場に入ったら、勝手に予想するのが楽しみになった。今日の風なら、あっちゃかな?

敏蔭先生:「まーちゃん、お客様が飛行機で来島するから、迎えに行ったら、午後から一緒に釣りをしようか。」

宗圓:『やった! また敏蔭先生と一緒に釣りをして、教えてもらえる。』

当日は、北西の風 14m。ルンルンだな。丹下のオジさんなら、問題ないな!

飛行場に行ってビックリ! 欠航なのだ!

宗圓:「えーっ、なんで、こんな風で欠航!」と待ち合わせゲートの先頭で待機していた自分が大声で言ってしまった。

静かだった場内にグランドスタッフの罵声が響いた。

「こんな、大風で何を間違いな事言っているのですか。」まるで、ヤクザか。大声で何度も怒鳴り散らす。更にその声を聞いて他のスタッフ来て、怒鳴り散らす。飛行場のスタッフは有名な丁寧な対応のサービスではなかったのか? まるで、行ってはならない飲み屋街のチンピラだよ。なぜ? そこまで怒鳴るの?

敏蔭先生:「やっぱり、丹下じゃなきゃ無理か!。まーちゃん、帰ろう。」

宗圓:「えーっ、どうしたの? どうなっているの。だって、風だって、北西の風 14m だったよ。オレ、さっき調べたよ。」

敏蔭先生:「丹下が定年退職したんだよ。」

丹下さんが定年退職したのなら、次の方が操縦すればいいじゃん。えーっ、なんで?

釣りをやっついて感じたが北西の風 14m はかなりの

強風だよな。でも、毎回当たり前に飛んで来たもん。丹下のオジさんは。

あの時のグランドサービスのスタッフの罵声を目に浮かぶ。なぜだろう？

もしかしたら、今までも会社で欠航を判断しても、丹下オジさんが行けると決め飛んで来たのかな。だから、あの罵声と色々な飛行ルートなのかな？国に飛行ルートを報告しなくてはならないだろうし、乗客の方のクレーム(揺れが怖い)等あったのかな。無事任務遂行だけではいけないのかな。でも、それを押し切っても安全に行けると言う自信。

綿密な天候調査、飛行ルート設定、当日の雲の状態、空気の安定した壁の境を探す能力。操縦桿操作は最後の最後。

強風でも安定して着陸航路に入ってくる。色々な所から飛んで来るを見てそう思う。

釣りなら、技術なんて最後の最後の当たり前な把握事項。それよりも、敵は偉大な自然の力。会社の上司でもない。任務遂行のため、自分の力をフルに発揮して、皆から感謝してもらっている丹下のオジさんが格好が良い。自分も男ならこうなりたい。皆から喜んで頂ける人間になりたい。

川ボラ

鈴木 伸一

今年は何かと忙しかった上に、肉体的にも精神的にもいろいろとダメージを受けた年であった。一方、釣りに関して言えば、そんな年にもかかわらずしっかりと中身の濃い釣りが出来ていたようだ。



年明け早々、小田原早川冬季CRにおける初釣りでモクズガニ(こんなこともあるのですね～ しっかりとP.T.N.(Pheasant Tail Nymph) #14を口に飲み込んでいた)、美形のレッドバンド🟦に始まり、これまた小田原早川冬季CRでバックキングを10m程も引き出してくれた大型ホウライマス🟪(愛知県水産試験場鳳来養魚場で発見され、その地名にちなんで名付けられた無斑のニジマス突然変異)で締めくくり。



その間、3月～GWまでは主に地元の柳瀬川(清瀬市)で、マルタ、ニゴイ、コイ、フナ、スモールマウスバス狙い。しかも、コイこそ80オーバーは出なかったものの、マルタは久々の体長60cmオーバー、フナ(種は不明)も体長45cmと巨大なものまでランディング出来た。





GW が明けると、柳瀬川では 5 月末まではコイ色になるのだが、今年は銀色に輝く何やら見慣れない魚(体長 40cm ほどの)の小群れが淵から上ってきては瀬でヒラを打つのが散見できた。そっと土手から観察していると、敏捷、かつかなり神経質な魚のようで、人影や水面近くを飛び交う鳥(ツバメにでさえ)に即座に反応し、高速で深みに身を隠してしまう。長年釣りをやってきたが、清流域でこのような魚は一度も目にしたことはなかった(気がつかなかっただけかもしれないが)。

ところが、毎日のように足繁く柳瀬川に通っている地元の釣り仲間から貴重な情報を得ることが出来た。そんな気もしていたが、あれはボラだと言う。しかも、なかなかフライは追わないが 1 匹だけランディング出来たと写真を見せてくれた。確かに柳瀬川(清瀬市)では春先に体長 10cm ばかりのイナッコの群れを見かけることがあるが、1 月も経たぬうちに姿を消してしまう(何故暖水系の魚がそのような低水温の時期に、オイカワや成長期のアユの生息域である中流域まで遡上してくるのであろうか?)。実は僕の今年の釣りに関するテーマの一つに、ハゼ釣り教室でよく見かけるがなかなか口を使ってくれないボラを如何にして釣ってみせるかがある。

自転車で通えるそんな近場で、ボラ攻略方法を実験できるなんて実にラッキーなことではないか! 早速、ボラに関しての論文をネット上で検索してみたり、YouTube で海外の mullet fishing に関する情報を得ようにも、生態(不完全)や砂泥底の河口や汽水域での

釣りに関する情報は見つかるものの、清流域における川ボラ釣りの情報は見つからない。

Google AI による概要では「ボラの食性は雑食で、水底に積もった沈殿物、付着藻類(コケ)、動物プランクトン、デトリタス(生物の遺体や排泄物などの微細な有機物)、ゴカイなどの底生小動物などを食べます。泥や砂ごと吸い込んで消化するため、胃には丈夫な筋肉層が発達しています。

幼魚期:主に動物プランクトンなどを食べます。

成長期以降:水底の沈殿物、付着藻類、デトリタスが主な餌となります。

その他:ゴカイや小型の底生動物も捕食します。」とあり、北隆館発行 中村守純著 原色淡水魚類検索図鑑には「体長 400mm~600mm。川へ入るのは 300mm 以下が多い。脂脰が発達している。世界各地の熱帯から温帯にかけて広く分布。……幼期にはよく川を遡り、純淡水域にも入る。雑食で、付着藻類もよく食う。表層を泳ぎよく水面に跳躍する。……」とある。確かに瀬に入るとアユと同じように付着藻類を食む行動が見て取れる。ところが、瀬に入ったボラは、上空をフライラインが飛び交うだけで蜘蛛の子を散らすかのように姿を隠してしまい、まるで釣りにはならない。そうかと言って、マラブーを巻いただけのフライをルースニングでボラの口元へ送り込む(海外でも河口、汽水域ではそのような釣法か、予めボラの通り道にフライを沈めておく待ちの釣りが一般的のようである)のでは自分的には釣趣に欠ける。さて、どうしたものか……



先ず思い付いたのは、ボトムフライにタングステン・ビーズ付きのオオユスリカ・ラーバ #12、ドロップパーにはノー・ウェイトのユスリカ・ラーバ #14 をセットしたチェコ・ニンフィング・スタイル。そういえば、これらのユスリカ・ラーバ・フライは今年初めて巻くフライ達。様々な想いを込めて丁寧にタイイングした後、愛用の自転車を駆っていざ鎌倉。

ところが、……である。目標達成には長丁場と心してかかったのであるが、あっさりにも実験開始初日にボ

ラを釣ってしまった。初日はボラが潜むポイントが分らず、ポイント探しに時間を費やしてしまったが、その後、連日のように3回、計4回の実験で体長 40cm 程のボラを「つ抜け」。最早、まぐれとは言わせない。川ボラ釣り実験は一応成功裏に終えることが出来た(しかしながら、反省点がない訳では無い。このフライフィッシング・システムではボラを狙ったつもりでも、アユやオイカワ、大型のコイやニゴイまでも、外道も実に多種多彩である。大型の川ボラに特化したフライ・セットの研究が今後の課題である)。それに、フライで釣っていて分ったことに、ボラは口を使わないから釣りにくいのではなく、マスなどと比較してフライを咥えている時間が極めて短く、口周りは思っていた以上に硬いと言うことであった。フック(形状、ワイヤー径、サイズ)の選定、当たりの取り方、掛けてからもジャンプさせないようにする等、ボラ釣り、なかなか奥の深いものがある！

6 月に入ると、高原川で開催される恒例のJLAA北陸支部大会。今回は幸か不幸か？ 大会前日に砲弾型の見事な本流ニジマス(高原漁協では、ここ数年はニジマスの放流はしていないと聞いているので、過去に稚魚放流されたものか自然繁殖したもの？)を釣ってしまった。「大会前日に大物を釣ってしまうと、大会当日には運が尽きてしまい釣れない」なるジンクス通り、当方、大会当日は惨憺たる結末に。



7 月に入ると、11 月一杯までは釣り教室など釣りに関したイベントのオンパレード。準備などに追われ、とても自分の釣りは叶わない。それでも、猛暑も過ぎ去った 10 月某日、サンデー毎日の釣り仲間と連れだって、BBQを兼ねて箒川C&Rエリアへ。当釣場は大型のニジマスが数多く放流されており、しかも今年の放流魚は引きの強いイタダキマス(神山水産が改良・生産を手掛ける「釣って楽しい！ 食べておいしい！」ニジマス)とあって、年甲斐もなく 2 日間も根を詰めて釣り続けてしまうと、帰宅した頃には全身筋肉痛、その上右手の指先が攣るやらふくらはぎや腿の裏も攣ってしまい、それこそ満身創痍。湿布薬、ツムラの68番が大活躍。年は取たくないものである。



12 月第 1 週の土曜日から日曜日に掛けては、私が関わっている JFCC (Japan Fly Casting Club) と WFFJ (World Fly Fishing of Japan) 合同納会が丹沢・札掛で開催されている。数年前より JOFI 東京の有志もこの納会に参加するようになり、普段は主に海面の釣りをされている方に対し、テンカラ・フライフィッシング教室を実施している。この納会に参加している JFCC や WFFJ のメンバーの多くは公認釣りインストラクターの資格を所有しており(JOFI 東京メンバーでもある)、お互いに未知のジャンルの釣りを勉強する良い機会となっている(懇親江戸前ハゼ船釣り教室同様)。

私は土曜日の午前・午後とテンカラについて、キャスティングの基礎、竿裁きなどの講義を担当し、生徒さん方にはそれぞれ美しいイワナを釣っていただいた。日曜の午前中(WFFJ のメンバー(現役の World Fly Fishing Championships 選手)が最先端の Czech Nymphingの指導)は時間を空けることができたので、ヘラ竿を改造した Czech Nymphing 用の竿で前日から竿抜けとなっていた最上流部へ試し釣りの機会に恵まれた。



放精後のイワナは痛々しいものである。体力回復を待つてそっとリリース。そうそう、今年は孫娘が釣りデビューを果たした。船橋港親水公園でのハゼ釣りであった

が、血筋は争えないもので、娘もそうであったように、特に教えることもなく見よう見まねで当たり前のように結構釣っていた。

2025 年度活動実績（一部予定を含む）

日付	活動実績
4/26(土)	水辺観察会(渡良瀬川)
5/25(土)	JOFI 東京総会、親子で船釣り講座(港区立芝浦港南区民センター委託 座学)
5/31(土)	親子で船釣り講座(港区立芝浦港南区民センター委託 実釣)
6/14(土)	親子釣り教室 若洲シーサイトパークグループ、日釣振
7/12(土)	釣りガール釣り教室 若洲シーサイトパークグループ
7/27(日)	ねりま遊遊スクール(親子ハゼ釣り教室) 練馬区教育委員会委託
8/9・10(土・日)	渡良瀬川鮎釣り教室
8/24(日)	女性・少年少女ハゼ釣り大会 全磯連関東支部に協力参加
9/7(日)	ねりま遊遊スクール(親子ハゼ釣り教室) 練馬区教育委員会委託
9/13(土)	第1回若洲海浜公園夜釣り教室 →強風のため中止 若洲シーサイトパークグループ 第2回役員会 江東区文化センター
10/4(土)	初心者ファミリー釣り教室 若洲シーサイトパークグループ 日釣振協力参加 木更津パークベイフェスティバル 親子ハゼ釣り教室 千葉県公認インストラクター連絡機構協力参加
11/15・16(土・日)	令和7年度年度全釣り協公認釣りインストラクター資格試験 講師・スタッフを派遣
11/30(土)	令和7年度船上懇親会 深川富士見ハゼ釣り天ぷら船 JOFI 埼玉、JOFI 西東京 全釣協、釣り人専門官
12/6・7(土・日)	札掛納会 丹沢ホーム JFCC(ジャパンフライキャスティングクラブ)、WFFJ(ワールドフライフィッシングオブジャパン)合同懇親釣り会
12/13(土)	第3回役員会 江東区文化センター
3/14(土)	第4回役員会 総合区民センター(江東区大島4-5-1)
3/22(日)	釣りインストラクター更新時講習)

毎月第2 土曜日	釣り場クリーンアップ作戦 若洲海浜公園釣り場における釣り場 クリーンアップ、及び釣り指導
-------------	--

編集後記

今年度の会報編集にあたりご投稿いただきました皆様お忙しい中、原稿作成のご協力誠にありがとうございました。すべての記事にはそれぞれ釣りに対するアプローチや考え方があり、釣り人の拡大だけではなく釣り場を守りたいという思いを強く感じました。

2025年4月よりJOFI東京の活動に参加し、釣り体験教室では親子で釣りに取り組む姿や魚が釣れた時の喜んだ顔、参加いただいた方々と共に私自身も本当に素敵な経験をさせていただきました。

本会報誌は皆様からの寄稿の様子を見て、適宜特集を組んで発行していきたいと考えています。原稿は随時募集しておりますので、会員名簿を参照し広報部宛に電子メールや郵送などでお寄せ下さい。

原稿の集まり具合によっては期限を設けて執筆依頼をすることもありますので、その際はご協力をお願い致します。(真中 友和)

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌 第14号暫定版

発行日 2026年(令和8年)1月1日

発行 JOFI 東京
(一社)全日本釣り団体協議会 公認
東京都釣りインストラクター連絡機構

編集 同上(広報部)

JOFI 東京 公式 X <https://x.com/jofitokyo>



HP <https://jofi-tokyo.org/>

